

正面玄関

旧開智学校校舎の正面玄関は、来賓の方だけが使用できるようになっていた。生徒や教師は、校庭に面した廊下の反対側にある扉から入っていた。廊下の白い壁とは対照的に、天井の中央の照明器具には西洋風の彫刻が施されている。この照明器具のデザインは、旧開智学校校舎を設計した大工の立石清重（1829-1894）の手帳にスケッチとして残されている。

明治天皇（1852-1912）と近代教育

明治天皇は 1880 年、全国行幸の折に開智学校を訪問された。松本では、松本城の二の丸に建てられた電信局や裁判所など、日本の近代化を象徴する施設を視察された。

開智学校は、一見すると異例の訪問先だが、その革新的な教育実践が天皇の目にとまった。1870 年代、開智学校は県内で唯一、「英学」を主要科目のひとつと位置づけていた。開智学校は、天皇の行幸後も新しい教育プログラムを試行し続けた。1890 年には、生徒を個人の能力に応じてレベル分けし、最も助けが必要な生徒に最高の教師をつけるという制度を実施した。この制度は 4 年後に生徒間のいじめが原因で廃止されたが、学校は生徒の学習を向上させるための新しい方法を模索し続けた。

開智学校は、生徒のための教室は十分にあったが、明治天皇を迎えるにふさわしい施設として、新たな設備が必要であった。2 階の教室を間仕切りで閉め、床を高くして天皇の座敷とし、身分の高い客を迎えることができるようにした。このように、当時の応接室は、身分に応じて客席の高さを変えることが多かった。

また、椅子や金屏風などの調度品も、天皇が快適に過ごせるようにと設置された。1891 年、同校は天皇の写真を寄贈され、現在、この座敷に飾られている。床は 2 階の講堂と同じ竹で編んだ筵を敷いている。松本は江戸時代（1603-1867）にこの竹編みで有名になったが、現在ではその職人も少なくなっている。